

多良海道を往く歴史をたどるみち

諫早から佐賀に通じる多良岳のすそ野を横断する歴史街道



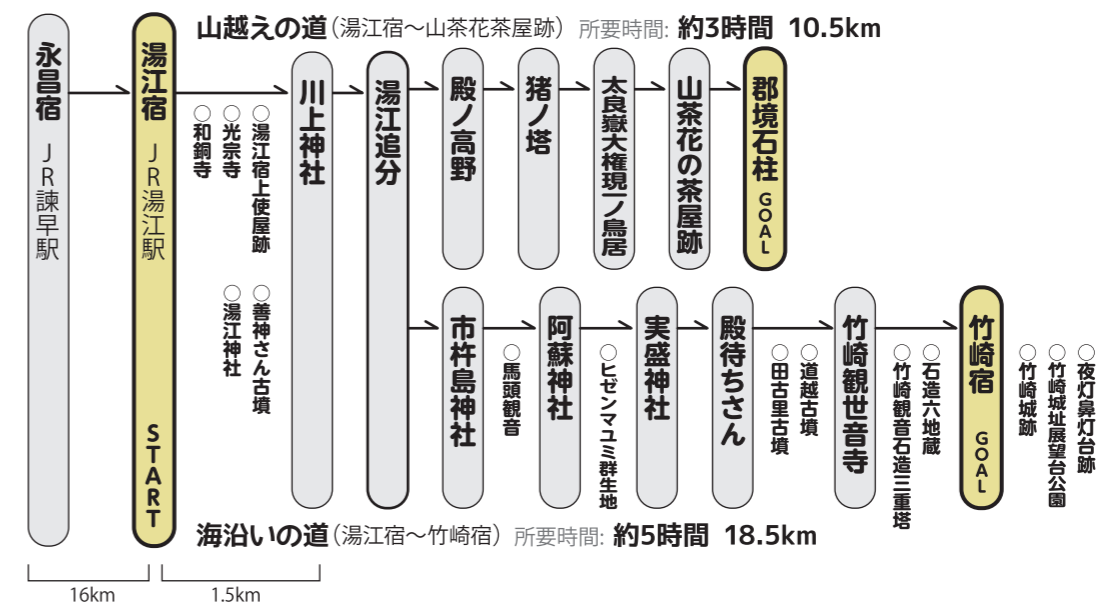
6

見どころ
江戸時代の面影を残す
自然道、風景、史跡 など

おすすめの季節
春・秋

新日本歩道紀行100選
テーマ: 歴史の道

スタイル: ハイキング・トレッキング



起状に富んだ山道や有明海の眺望など、江戸時代の息吹を感じる自然道です。多良海道約49kmのうち、湯江宿から佐賀との県境までの2つのルートを紹介してみます。

立ち寄りスポット

山茶花高原
ピクニックパーク&ハーブ園

有明海を経て雲仙岳、遠くは熊本まで見渡せる素晴らしい眺望と清々しい風と光に溢れる高原。ハーブ園(要入場料)では食事やショッピングが楽しめる。

諫早市小長井町遠竹2867-7 ☎0957-34-4333
【休み】火曜日(祝日の場合は翌日)、年末年始



多良海道とは

長崎街道(小倉～長崎間57里288km)のうち、永昌宿(諫早市)～塩田宿(嬉野市)までの間の12里8町(約49km)のルート。湯江追分からは、山越えのルートと有明海沿いのルートの二手に分かれ、再び多良宿で合流。佐賀藩主や諫早領主らが佐賀城下と長崎間を往復する際に使用した道で、往時のままの手つかずの自然道が残ります。

竹崎街道とは

多良海道のうち、湯江追分から多良宿間の山越えのルートは、多良越えといわれる難所。有明海沿いのルートである竹崎街道は比較的アップダウンが少なく、女性や子供、荷物を持った人々が往来しました。

山茶花高原ピクニックパーク&ハーブ園

山茶花茶屋跡から、最寄りのバス停「みさかえの園」まで、2.1km、徒歩約30分。

《県営バス》
みさかえの園発 → 諫早駅前着
6:23 → 7:15 13:13 → 14:05
7:58 → 8:50 15:13 → 16:05
10:43 → 11:35 17:43 → 18:35
(2018年11月現在 / 平日版)

ゴール 郡境石柱

山越えの道 / 10~14

10 殿ノ高野
殿様の行列がこれからの山越えのため休息し、隊列を整え直したところです。

11 猪ノ塔
寛文3年(1663)、狩猟の名人といわれた山口伊佐衛門が、千余匹の猪鹿を捕り、その供養のために建てた自然石の供養塔です。

12 太良嶽大権現一ノ鳥居
太良嶽大権現への参道の一つ。明治7年の台風により倒壊したままとなっていたが、平成29年(2017)金泉寺住職により再建されました。

13 山茶花茶屋跡
多良海道の中で最も高い標高約380mの位置に、かつて旅人が休憩するための茶屋があり、餅やとろろ汁をふるまいました。今は茶屋跡の石垣のみが残っています。

14 郡境石柱
明治4年の廃藩置県以降に建立された郡境を示す石柱で、現在の長崎県と佐賀県の県境。銘文: 表面「従是」北藤津郡/南高来郡、裏面「高来郡之内遠竹村/藤津郡之内田古里村」

コースに関する問い合わせ先 2018年12月
諫早市 商工観光課 Tel.0957-22-1500 Fax.0957-22-2462

新たな魅力を発見したら、こちらまで
(一社)諫早観光物産コンベンション協会
Tel.0957-22-8325 Fax.0957-22-8354
www.isahaya-kankou.com



【共通の道／1～3】

1 湯江宿

諫早領内にあった5つの宿場の一つ。交通拠点として繁栄し、旅人や金泉寺への参詣者などが往来。旅籠、造り酒屋、茶屋が並ぶ賑やかな宿場町でした。

周辺スポット 和銅寺

和銅元年(708)、行基が開いた曹洞宗の寺院。本尊は十一面観世音菩薩立像(県指定有形文化財)。本堂入口に仁王像、境内には龍造寺隆信の墓があります。

周辺スポット 光宗寺

文禄元年(1592)、龍喜が開いた浄土真宗の寺院。本尊は阿弥陀如来。佐賀藩主が上使屋に宿泊した際、家臣の一部が警護も兼ねて宿泊しました。

周辺スポット 湯江宿上使屋跡

幕府巡見使や佐賀藩主が宿泊。母屋は茅葺きの武家造りで、中央に居間や寝所、他に弓の場、武器庫、炊事場などがありました。現在は石垣と屋敷跡のみが残ります。

周辺スポット 湯江神社

建仁2年(1202)創建。祭神は菅原道真。往時は数十本の老松が聳えていました。

周辺スポット 善神さん古墳(市指定史跡)

現在は玄室がむき出しですが、もとは円墳。内部には線刻文様のほか、人物、船、動物らしいものが描かれています。室内には後世に祀られた16体の石仏があります。

2 川上神社

寛平年間(889～897)創建。祭神は豊玉姫命。境川に隣接し、交通の要衝と配水の要所の役割を担っていました。入口から拝殿まで一直線に伸びる参道に趣きがあります。

3 湯江追分

ここを境に山越えの多良海道と海沿いの竹崎街道が分岐・合流します。かつて「右たけざきみち／左たらだけみち」と刻んだ追分石がありました。

【海沿いの道(竹崎街道)／4～9】

4 市杵島神社

寛文・延宝期(1660～1680年頃)創建。祭神は市杵島姫命。文久元年(1861)年、領主諫早家より幣帛を供進されたのち、近隣、遠方からの参詣も増えました。境内には、馬頭観音、翁塚(芭蕉塚)、蛙と亀をあしらった手水鉢があります。

見どころ 市杵島神社の馬頭観音(市指定有形文化財)

諫早領主がここで休憩している間に急死した愛馬の霊を弔うために建てたもの。鮮やかな朱塗りの厨子には、諫早家の家紋が施されています。

5 阿蘇神社

弘和元年(1381)創建。祭神は肥後の国阿蘇大神の御分霊「建磐龍命」。社殿にはナマズの絵があり、昔も今もナマズは阿蘇宮さんの使いであるとして食べない風習があります。

見どころ 長里・阿蘇神社のヒゼンマユミ群生地(市指定天然記念物)

ニシキギ科の常緑樹で、樹高は約8mにも成長。春に淡緑色の小さな花を開き、晩秋に熟してオレンジの実を付けます。神社上の小道横と下の水場に計4本が確認されています。

6 実盛神社

祭神は源平時代の平家方の武将で斎藤実盛。木曾義仲軍との戦いで稲の株に足をとられて倒れ、敵に首を取られたことから稲の害虫になったといわれており、稲の害を避け五穀豊穡となるよう実盛が神として祀られています。

7 殿待ちさん(国光神社)

昔、敵軍がここで待ち伏せて、遠竹城主を討ち取った所でこの名が残っています。

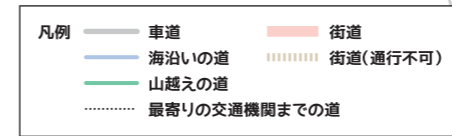
周辺スポット 田古里古墳(太良町指定史跡)

6世紀後半頃に作られた円墳で、玄室は奥室と前室に分かれた腹式墳。前室内に線刻文様を有し、封土の周囲には空塚がめぐらされています。

周辺スポット 道越古墳(太良町指定史跡)

6世紀後半頃に作られた有明海を舞台に活躍した豪族のものと考えられます。玄室は単室の横穴式石室で太良町内最大の円墳。自然石の巨石の上に大きな塊石が持送り式に積み上げられています。

・小長井のオガタモノキ



NAGASAKI

殿待ちさん(国光神社)

長々の道祖神

一本松神社

実盛神社

多良海道を往く歴史をたどるみち
諫早から佐賀に通じる多良岳のすそ野を横断する歴史街道



SAGA



8 竹崎観世音寺

和銅2年(709)、行基により創建された真言宗の寺院。本尊の千手観世音菩薩像は九州七観音のひとつ。航海安全、豊漁、豊作の鎮護として地元の人々から厚く信仰されてきました。現在の本堂は、寛政8年(1796)諫早家によって建造されています。

見どころ 竹崎観世音石造三重塔(佐賀県指定重要文化財)

鎌倉時代中期の作。ひとつが蓮華文様、もうひとつが孔雀文様を施した優美な石塔で、我が国の石造美術の頂点を示す傑作のひとつです。

見どころ 石造六地藏(太良町指定重要文化財)

大永5年(1525)、参道に東西一対に建てられた地藏塔。六角柱のがんに六道巡錫の地藏尊6体が彫られています。

9 竹崎宿

竹崎港は古くから有明海航路の要所として栄えており、宿が置かれ、上使屋や番所がありました。

周辺スポット 竹崎城跡(太良町指定史跡)

南北朝時代、島原の有馬隆泰によって築かれた、竹崎島の特殊な地形を利用した山城と水城との性格を併せ持っていた竹崎城。現在では石垣の一部と空塚が残っています。

周辺スポット 竹崎城址展望台公園

竹崎城を再現した展望台は、1階に漁具資料館、2・3階の展望所からは、東に有明海を隔てて大牟田、遠くは阿蘇の山々、西に多良山系、南に雲岳、北に有明佐賀空港が一望でき360度のパノラマを満喫できます。

周辺スポット 夜灯鼻灯台跡(太良町指定重要文化財)

竹崎沖は複雑な波立ちから、海の難所として恐れられており、古くから灯台が建てられました。明治2年に再建された灯台は、我が国史上初の十一面ガラス鏡式洋風灯台で当時の最新式でした。

《祐徳バス》		《JR》	
竹崎本泊	大浦駅前	肥前大浦駅	諫早駅
7:33 → 7:40	7:59 → 8:06	5:42 → 6:15	6:04 → 6:41
8:56 → 9:03	9:56 → 10:03	6:39 → 7:18	8:17 → 8:45
11:39 → 11:46	13:21 → 13:28	14:02 → 14:45	18:06 → 18:49
16:31 → 16:38		18:58 → 19:38	

(2018年11月現在 / 平日版)
注: 祐徳バスの上記路線は日曜・祝日除く全便運休